

# 日本繊維板工業会 NEWS

No.1

2017年6月9日発行

## 瀧川顧問が杉山英男賞を受賞

6月7日、節目の第30回木質構造研究会 総会が開催され、当工業会前専務理事 瀧川充朗氏が「杉山英男賞」を受賞しました。

瀧川氏の受賞業績は「木質ボード類の構造利用における啓蒙・普及」です。

2014年に日本工業規格 JISA5905（繊維板）に構造用 MDF を、2015年に JISA5908（パーティクルボード）に構造用パーティクルボードを新たに制定しました。



## 木質構造研究会とは

木質構造研究会は、会長稲山正弘東京大教授、東京大学木質材料学研究室に事務局を置く会員数 345（団体・個人）の学術団体です。

我が国の木材・木質材料・木質構造に関する研究・技術開発を牽引してきました。

【機関誌】  
Journal of Timber  
Engineering  
(年4冊発行)



(稲山正弘会長による総会)

## 杉山英男賞とは

杉山英男先生（静岡市出身、1925～2005年）は、戦後、日本を代表する木質構造学の権威。東大大学院建築学科を卒業後、東京大学農学部、東京大学名誉教授。日本木材学会の会長を務め、木質プレハブ工法、枠組壁工法の国内での普及に貢献されました。

杉山英男賞は、木質材料・木質構造技術研究基金を設立し、木材・木質材料・木質構造に関する研究・技術開発の推進に多大な貢献をした個人に対する表彰制度です。

過去には、当工業会の姫野富幸顧問（2006年）、会員では靱山久雄氏（㈱ノダ 1988年）、町澤三郎氏・吉田邦男氏（大建工業㈱1990年）山本昭夫氏（ホクシン㈱1992年）篠塚昌毅氏（大建工業㈱2003年）が受賞されています。



(瀧川顧問による受賞記念講演)

この JIS 化を基に、国土交通省から耐力面材の告示（6月中に施行予定）で上記構造用 MDF、構造用パーティクルボードの壁倍率が定められ、構造用合板等と同じように設計や建築確認時に取り扱われることになりました。また、日本加工技術協会主催、当工業会共催の「木質ボードシンポジウム」において耐久性などを PR し木質ボードのプレゼンス向上に大きな役割を果たしました。



(安藤直人委員長による功績紹介)

同時に受賞したのは三井ホームの清野明氏、(一社)日本ツーバイフォー建築協会の辻村行雄氏の「枠組壁工法による耐火・中層化建築物の推進」でした。